

2014年8月から2015年5月まで、アメリカ合衆国のコロラド大学ボルダー校へ約10か月間の交換留学をしていました。多種多様な自分と異なる文化背景を持つ人々に囲まれる環境に身を置くことは、時には苦勞もありましたが、結局は「日本人」である自分という人間のアイデンティティを見直す良いきっかけとなったと思います。

まず勉学についてですが、私はコミュニケーション学を専攻していました。交換留学生だったので、自分の興味のあるものだけ融通をきかせて取られる環境は非常に恵まれていたと思います。前期は対人コミュニケーションの基盤のクラスを取り、後期は異文化コミュニケーションのクラスで、三人一組で一つの文化的団体を選んでフィールドワークをして実際に研究対象の文化活動に足を運んだり、プレゼンをして発表をしました。私たちはMennoniteというキリスト教の一派について研究し、他の宗教との比較文化的目線で研究していました。グループワークなどの際、現地の学生も留学生も交じってハンデなどなく同じように扱われる環境の中、ディスカッションのときなど、日本語ならもっと言いたいことが伝えられるのに…と悔しい思いをしたことも沢山ありましたが、理解のあるクラスメイトがサポートしてくれて人の温かさを感じたり、自分の意見をしっかり持っていて、はっきりと主張する同年代のアメリカ人達から多くの刺激を受けたりもしました。また、私は向こうで大学の部活にも入っていて、アルティメットフリスビーというスポーツをしていました。スポーツを通して色々な州へ遠征に行ったり、アメリカ人と国境を越えた繋がりを持てたことは本当にかげがえのない経験となりました。

留学を通して感じたことは、どこへ行ったとしても自分は自分であり続けるということでした。到着してしばらくは、アメリカにいるのだから自分もアメリカ人のようになるべきであり、ならなくてはいけない、と変に気負っていたのですが、その中で、日本文化がすごく好きで私よりも日本の歴史に興味を持ってくれているアメリカ人の友達に出会いました。そういった人と関わるなかで、日本には当たり前であった日本の価値を客観的に見直すことができ、日本人であることに自信と誇りを持てるようになりました。私の人生のほとんどを過ごしたのは埼玉なので、埼玉で自分は成長したことを自覚し、これからアメリカでできた友人などが日本を訪問してくれる際は、自信を持って埼玉を紹介したいと思っています。



アルティメットフリスビーチームのメンバーと集合写真



ハロウィーンの夜



仲良しの友達との一枚